

2026年10月期 第2四半期 決算説明会におけるQ & A (要旨)

日時：2026年6月12日(金) 16時30分～17時05分

Q1：中東情勢悪化に伴う旅行事業の足元の予約状況、およびキャンセル状況、今後の見通しについて

足元の予約状況につきましては、特に日本人の海外旅行において需要がやや弱含んでおり、日々の新規予約ペースは前年を下回って推移していますが、夏の繁忙期やシルバーウィークの予約に関しては、早期からの需要喚起による積み上げにより、第4四半期(3カ月)の取扱高の前年同日比ベースでは、現在約120%の水準を確保しています。

キャンセル状況については、3月から4月にかけてはキャンセルが出たものの、現在はほぼ沈静化しており、現時点で今後大きなキャンセルが発生する懸念はないと認識しています。今後は情勢を見極めつつ、回復傾向にある需要を確実に取り込むとともに、販売強化地域を見極めていくことで、しっかり利益を確保していきます。

Q2：業績見通しにおける中東情勢の影響期間の想定と対策について

中東情勢については、一部地域で依然として不透明な要素が多く、予断を許さない状況が続いていると認識しています。一方で、お客様の旅行需要は徐々にではありますが回復傾向にあります。今後の見通しの時期感としては見極めが非常に難しい局面ではありますが、当社としては外部環境に左右されないよう、魅力ある商品開発や効率的な仕入れを徹底し、逆風に負けない体制を構築してまいります。また、影響が長期化した場合であっても、迅速な経費削減をはじめとするリスク管理・リカバリーの準備を進めており、現在の業績見通しの範囲内で対応可能であると考えています。

Q3：下期業績予想の修正におけるホテル事業の下方修正の理由について

ホテル事業全体としては引き続き順調に推移していますが、下半期の業績予想につきましては、より慎重な前提に基づき見直しました。主な理由は、地政学リスク等の影響による海外一部地域(トルコやウズベキスタン等)での売上減少と、各海外拠点における旅行者数の減少傾向が挙げられます。

売上高に対して利益の減少幅が大きく見える点につきましては、市場全体の単価がやや下落する中で、稼働率を維持・引き上げる施策をとったことによるものです。これにより、稼働に伴う変動費(原価)や運営コストが相対的に増加し、利益を圧迫する形となったため、下期の予測へ織り込むこととしました。

Q4：グアムリーフホテルにおける特別損失（60億円）の計上理由と経営判断について

グアムリーフホテルにおける60億円の特別損失を計上するに至った背景として、現地の観光需要の低迷により、当初計画していた収益が見込めない状況が続いていることが挙げられます。本物件は2069年までの土地の長期リース契約を結んでおり、そのまま継続した場合、

- ①2030年までに義務づけられている約80億円の設備投資
- ②毎年約4億円の長期的な賃借料負担
- ③48期に予定している新リース会計基準適用時に、多額の減損損失が発生するリスクなど
将来的に巨額なコスト負担と減損が生じる可能性がございました。

これらを低減するため、今回は土地を取得した上で契約を中途解除するという決断を下しました。今期業績においては一時的に特別損失を計上することになりますが、将来の潜在的リスクを早期に解消するための、最善策であると捉えています。なお、監査法人と具体的な処理方法について最終的な協議を進めています。